

# 「今、何の病気が流行しているか！」

## (川崎市感染症発生動向調査事業—令和4年第20週)の情報提供について

市内の定点医療機関から提供された感染症の患者発生情報をもとに市民提供情報である「今、何の病気が流行しているか！（令和4年第20週）」を作成しましたのでお知らせします。

令和4年第20週（令和4年5月16日から令和4年5月22日まで）

第20週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）感染性胃腸炎 2）突発性発しん 3）咽頭結膜熱でした。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は6.46人と前週（5.30人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.57人と前週（0.43人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

咽頭結膜熱の定点当たり患者報告数は0.24人と前週（0.14人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

### 今週のトピックス

“感染性胃腸炎～報告数が徐々に増加しています～”について取り上げました。

川崎市における感染性胃腸炎の令和4年第20週（5月16日～5月22日）の報告数は定点当たり6.46人と、2週前から徐々に増加しています。

感染性胃腸炎は、細菌（カンピロバクター、腸管出血性大腸菌など）やウイルス（ノロウイルス、ロタウイルス、アデノウイルスなど）等の感染性病原体により、下痢や嘔吐、腹痛等の消化器症状を呈する疾患です。原因となる病原体によって症状の程度が異なりますが、カンピロバクター等による食中毒では激しい下痢が出現します。

下痢や嘔吐を繰り返すと、特に小児や高齢の方は脱水症状を起こすこともあります。症状が激しい場合はすぐに医療機関を受診するようにしましょう。

川崎市感染症発生動向調査事業では、感染症のまん延の防止と市民の健康の保持に寄与するべく、市内の定点医療機関（小児科定点37施設、インフルエンザ定点61施設、眼科定点9施設、基幹定点2施設）等から報告された感染症発生状況をもとに集計を行い、市内の感染症の発生状況の正確な把握と分析、市民や医療関係者への情報の提供を行っています。

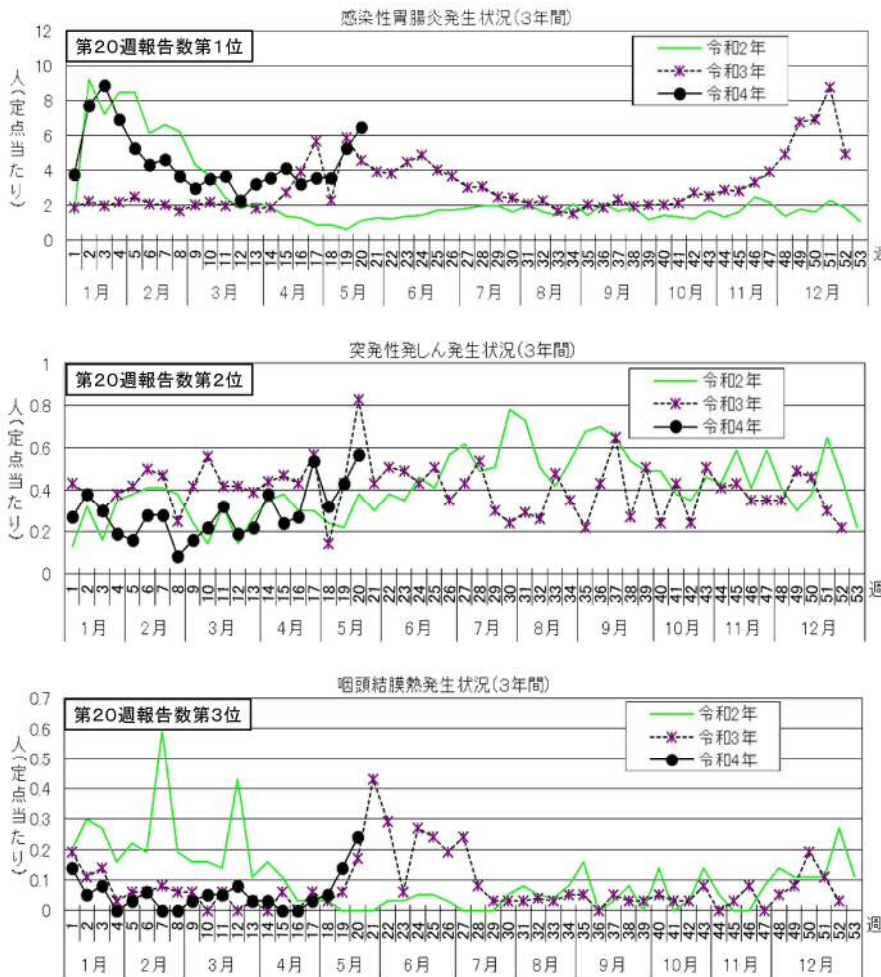
連絡先 川崎市健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当 野木  
電話044（200）2446  
川崎市健康安全研究所 三崎  
電話044（276）8250

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和4年5月16日（月）～令和4年5月22日（日）〔令和4年第20週〕の感染症発生状況

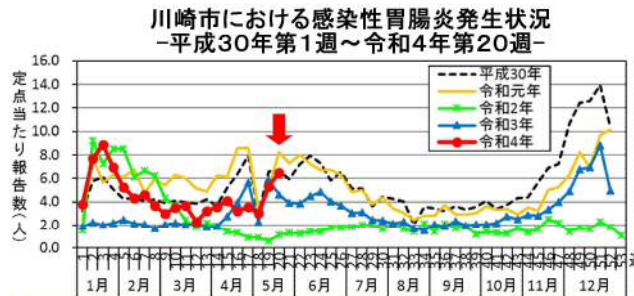
第20週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 突発性発しん 3) 咽頭結膜熱でした。  
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は6.46人と前週（5.30人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。  
 突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.57人と前週（0.43人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。  
 咽頭結膜熱の定点当たり患者報告数は0.24人と前週（0.14人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。



## 感染性胃腸炎～報告数が徐々に増加しています～

川崎市における感染性胃腸炎の令和4年第20週（5月16日～5月22日）の報告数は定点当たり6.46人と、2週前から徐々に増加しています。感染性胃腸炎は、細菌（カンピロバクター、腸管出血性大腸菌など）やウイルス（ノロウイルス、ロタウイルス、アデノウイルスなど）等の感染性病原体により、下痢や嘔吐、腹痛等の消化器症状を呈する疾患です。原因となる病原体によって症状の程度が異なりますが、カンピロバクター等による食中毒では激しい下痢が出現します。

下痢や嘔吐を繰り返すと、特に小児や高齢の方は脱水症状を起こすこともあります。症状が激しい場合はすぐに医療機関を受診するようにしましょう。



近年、カンピロバクターを原因とする食中毒が増えて  
 います。原因の大多数は、生又は加熱不十分な食肉（鶏  
 刺し等）の喫食や、原材料の食肉からの二次汚染です。



### 感染性胃腸炎とは？

- 【病原体】細菌・ウイルス等
- 【感染経路】経口感染、接触感染
- 【主な症状】下痢、吐き気、嘔吐、発熱、腹痛等
- 【予防対策】

